

研究主題

子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開
～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～

I 研究主題について

新しい学習指導要領における体育学習を来年度から先行実施が可能である。それに伴って、本年度は、現行学習指導要領での体育学習を行いつつも、新しい学習指導要領をイメージした学習を実施していくことが必要になってくる。従来本研究部の研究主題「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開」では、『子どもたちの主体的な活動』とは、新学習指導要領で重視される「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の基礎の育成」をめざす小学校体育において、運動の楽しさや喜び、健康的な生活の経験が、次なる運動及び心身の健康への学びの欲求となった姿であると考え、『確かな力を培う』とは、小学校1年生から4年生の「各種の運動の基礎を培う時期」、5年生から中学校2年生にかけての「多くの領域の学習を経験する時期」を通じて、運動の系統化のもと、指導内容を明確にして、例示の習得を通じ、多様な運動経験、学びの経験、体力の向上が図られた姿および、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成としてとらえてきた。

新しい学習指導要領の体育においても目標に「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決を通じた学習過程を・・・」とあるように、児童の主体的な活動を目指すための学習過程を通じてつくっていくことが重要視されている。また、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を・・・」とあるように、生涯にわたる資質・能力（確かな力）を育成することの大切さも述べられている。

そこで、本研究部では、本年度も昨年度に引き続き、研究主題を「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開」とし、副主題として「豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習」として、今日的な課題の中における体育の目標達成に向けて取り組みを考えていきたい。

II 研究の実際

本研究部は、平成28年度に鳥取県小学校体育研究大会を隼小学校を会場に開催した。また、平成30年度に中・四国小学校体育研究大会で保健領域の研究を発表することとなっている。それに伴って本年度は、保健領域の研究を行い、平成30年度中四国小学校体育研究大会の準備を進めるとともに、平成30年度から先行実施できる新しい学習指導要領における体育の方向性を研究していく一年としていきたい。

③研究の視点

- (1) 身に付けさせたい力の系統性を意識した単元の流れの工夫
- (2) 学習内容を明確化した学習展開の工夫
- (3) 子ども同士の学び合いの充実

III まとめ

今年度の郡小学校体育・特別活動研究部における研究は、保健領域を中心に行った。来年度の中四国小学校体育研究大会に向けて、保健領域における身につけさせたい力及び単元の系統性、学習内容の明確化、学び合いの充実について、いかに新しい学習指導要領につながる実践となるかについて研究を進めた。本誌に掲載している八頭郡の実践に関しても、保健領域を取り扱うことにより、より充実した研究につなげていきたい。

第3学年 保健領域「毎日の生活と健康」の実践を通して

指導者 植島 直生 (T1)

松森 友奈 (T2)

1 単元名 健康ポイントレベルアップ大作戦

2 単元について

本単元は、小学校学習指導要領体育科の第3学年及び第4学年〔G 保健〕に示されている指導事項のうち、健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにすることを目的に設定された単元である。生活習慣の乱れが低年齢化している現在、食生活をはじめとする望ましい生活習慣の早期形成が望まれている。自分の生活習慣ができつつあるこの時期に、毎日の生活と健康との関わりについて正しく理解させ、知識を身につけさせるためにも、本単元を取り上げている。本単元は、児童にとって初めての保健学習となる。第3学年では、「健康の状態には主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること」「健康を保持増進するには、1日の生活の仕方が深くかかわっていること、また、体を清潔に保つこと、」「生活環境を整えることが必要であること」を中心に扱う。

本学級の児童は、男子8名、女子4名の合計12名である。休憩時間には、遊び係が中心となって外で元気よく遊んでいる姿が見られる。また、給食時間の前には、友だち同士が声を掛け合って手を洗うなど、運動習慣や基本的な生活習慣は身につけているように感じられる。しかし、校内アンケートによると、ハンカチを携行していない日が多いと答えた児童や、前日と同じハンカチを持ってくる児童も少なからずいる。さらに、給食前やトイレ後の手洗いはするが、休憩後や掃除後の手洗いをし忘れる、もしくはしていないと答えた児童もいる。周りから声を掛けられれば手洗いはできるが、手洗いをする意義を実感できていない様子である。

指導にあたっては、本単元が3年生にとって初めての保健学習でとなるため、導入で「けんこうのもと」について考えさせ、児童の生活と摺り合わせることで、学習への興味を抱かせ、本単元の見通しを持たせたい。単元のはじめには、心や体が健康であることは、人と関わりながら明るく充実した毎日の生活を送れることにつながり、健康がかけがえのないものであることに触れるようにする。また、自分の生活を振り返ったり実験を通して自分たちの状況を可視化したりすることにより、自分の事と捉えるようにして、より衛生的で健康な生活のための意欲を高めさせたい。

3 単元目標

○健康な生活について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。

【関心・意欲・態度】

○健康な生活について、問題解決を目指して、学習活動を実践的に考え、判断し、それらを表すことができる。

【思考・判断】

○健康の状態、1日の生活の仕方、身の回りの環境について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解できる

【知識・理解】

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
・健康な生活について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・健康な生活について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	・健康の状態、1日の生活の仕方、身の回りの環境について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

5 小中一貫の視点

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
関連する単元			毎日の生活とけんこう	育ちゆく体とわたし	心の健康 けがの防止	病気の予防	心身の機能の発達と心の健康	健康と環境 傷害の予防	健康な生活と疾病の予防
重点を置く指導	・健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む脂質や能力を育てる。				・ケガの発生要因や防止方法、心と体は同様に発達し、密接な関係があること、病気の発生要因や予防の方法、心身の機能の発達と心身の健康について理解する。			・健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について理解させる。	
○運動の行い方を正しく理解し、仲間とともに安全で積極的に活動できる力。 ○体力を高めるための取り組みの方法や健康について思考し、生活の中で実行できる力。 ○自己の課題を解決できるように仲間とともに工夫と思考ができる力。									

6 指導計画（全4時間）

次	時	学 習 内 容	お も な 評 価 規 準
第1次	1時	健康な生活とわたし	【関】健康な生活について、自分の生活を振り返ったり、資料から考えたりするなど、学習活動に進んで取り組もうとしている。 【知】健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていることについて理解している。
	2時	1日の生活のリズム	【思】1日の生活の仕方について、資料や自分の生活をふり振り返りながら、生活リズムの課題や解決の方法を見つけたり選んだりするなどして、それらを説明している。 【知】健康に過ごすためには、1日の生活のリズムに合わせて、食事、運動、休養・睡眠が必要であることを理解している。
	3時 (本時)	体のせいけつ	【思】体の清潔について、資料や実験から課題の解決の方法を見つけたり選んだりするなどして、それらを説明している。 【知】毎日を健康に過ごすために、体の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることを理解している。
	4時	けんこうによい部屋	【関】健康な生活について、課題の解決に向けて話し合ったり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に取り組もうとしている。 【知】間に知を健康に過ごすためには、照明の明るさや換気など生活環境を整えることが必要であることを理解している。

7 本時の学習について

(1) 本時目標

話し合いや実験を通して、からだを清潔にしなければならない理由について考えることができる。

(2) 準備

手洗いチェッカー、ワークシート

(3) 本時の学習過程

学習活動	○主な発問 と ・予想される児童・生徒の反応	・留意点 ★評価【観点】(方法) ※手立て 言表現力にかかわる留意点
1 本時のめあてを確認する。		・前時までの学習をまとめた掲示を見て、学習した内容を確認する。 ・学び時計を提示し、本時の活動の流れをつかませ、見通しをもって学習を進めることができるようにする。
体をせいけつにするのはなぜか、考えよう		
2 体を清潔にできているか調べる。 ・個人 ・全体	○体を清潔にする方法のひとつ＝手洗いをきちんとできているのか調べてみよう。(T1) ・手はきれいに洗えていると思うな。 ・見えない汚れがあるかもしれない。	・いつも通り手を洗い、手洗いチェッカーできれいに洗えていなかった部分を確認し、個人のワークシートに記入する。”よごれ発見マップ”に全員がシールを貼り、全体で意見を共有する。 ・体の汚れている部分には細菌があり、放っておくと細菌が増えたり、においがでたりすることをおさえる。 ※工夫が思いつかないときは、教科書の写真を参考にしよう提案する。
3 体を清潔にする方法を考えよう。	○よごれ発見マップをもとに、どうしたら汚れをきれいに落とせるのか、洗い方を工夫してみよう。(T2) ○体を清潔にする様々な方法を考えよう。(T1) ・髪の毛はシャンプーできれいにできるね。 ・1日1回はお風呂に入ろう。	・資料より、衣服や体をきれいにする必要があることを学び、その方法を考察する。 ★手のよごれを把握し、衣服や体をきれいにする方法を考えている【知】(ワークシート)
4 学習の振り返りをする。	○体を清潔にしておくために、これから気をつけていきたいことは何ですか。	言「せいけつ」「1日○回」というキーワードを提示し、これから気をつけていきたいことをワークシートに書く。 ★健康な生活のために、体や衣服の清潔について気をつけていきたいことを見つけることができる。【思】(ワークシート)

○成果と課題

- ・目には見えない汚れに当たる物を、手洗いチェッカーによる実験やニンヒドリン反応で変色させたハンカチやTシャツ、靴下を用いて可視化することは有効であった。手洗いチェッカーをグループごとに設置して、1人ずつ体験することで自分の課題をつかむことができ、意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・T2の効果的な関わり方ができた。T1とT2の役割を明確に分け、養護教諭がインフルエンザやノロウィルスなどについて、専門性を発揮してわかりやすい解説を加えることができた。また、ウィルスの拡大写真を示しながら説明することで、子どもたちにインパクトを与え、手洗いの大切さを実感させることができた。
- ・友だちの『手のよごれ発見マップ』に色を塗る活動や、拡大して黒板に貼った『手のよごれ発見マップ』にシールを貼る活動によって、手洗いをしてもよごれが残りやすい場所について見ることができ、全員で共有することができた。
- ・子どもたちの実態から、課題をつかませたかった。学園で取り組んでいる「ハッピーすこやか週間」の結果をグラフ等で示すことで、保健学習と日常生活との関連を実感させるとよかった。
- ・ふり返りの時間を確保できず、全体で共有することができなかった。
- ・「体のせいけつ」について、児童の実態から手洗いをメインに授業を展開した。ふり返りでは、「垢や埃や汗をきれいに洗いたいから、毎日せいけつなハンカチを持ってきたい」「汚れをそのままにしておくと、臭いが出たり病気になったりすることがわかったから、せいけつにしたい」など、めあてを踏まえて手や体を清潔にする理由やこれから気をつけたいことまで書いている児童がいた。
- ・一方、手洗いについてのみふり返りをした児童もいた。体を清潔にする方法について話し合うだけでなく、板書や掲示をしたり、ワークシートを工夫したりすることで、体の清潔にまで思考が広がったのではないかと考える。